



第1109号

令和5年10月15日発行

目次	
臨時総会②報告	2～3
日本連合教育会研究大会報告	4～5
教育研究団体との懇談会	6
教育研究団体補助金の決定	6
信州「教育の日」ご案内	7
教育研究論文・ 教育実践賞募集のお知らせ	7
11・12月の研修ガイド	7
今月の一枚	8
100年館の絵	8



令和5年度新事業 「学び続ける教師への助成事業」 信濃教育会は学び続ける教師を応援します



▲9/25に長野県立大学で行われた産育休中の教職員を対象にした「子ども中心の学び合いセミナー」の様子

「学び続ける教師への助成事業」にご応募いただいた小布施中学校 今井智文先生の活動取材しました。

今井先生は教職員の生涯学習や学び直しについて研究されています。昨年「若手教職員と信教会長の語る会」をきっかけに、産育休中の先生方の交流や活動を支援するイベントを企画・運営し信濃教育会はこの活動を後援しました。本年度は本事業に応募いただき3万円を助成するとともにセミナーのちらし配布などの相談にも応じ今井先生の研究を支援しています。産育休中は学校から離れてしまい、現場復帰への不安を抱えがちといいます。一方で、産育休中にも学びたい、何かにチャレンジしたいという先生方も多いそうです。セミナーを開催する度に、産育休の先生方、大学の先生方、企業の方など、様々な人となつがっていくことを実感し、今年は、長野県立大学の金山美和子教授と「子ども中心の学び合いセミナー」を実施しました。11月3日には、育休中の先生方による「0さいから楽しむファミリーコンサート」を企画したところ、先生方が主体的に活動し、学び、スキルアップしていく姿から教育観がブラッシュアップされていくことを感じたそうです。産育休中の先生ばかりでなく、全ての先生方が主体的に学ぶ経験を通して、自らの輝きが増し、仕事や人生の一層の充実を願う、そんな思いがいたしました。

私の研究テーマ

「教職員の生涯学習及び学び直しについて
～子育て支援活動の実践を通して～」



小布施中学校 今井 智文 教諭

「学び続ける教師への助成事業」
現在も受付中



働き方改革のなかで めざす授業像を探り合い、 授業研究を楽しいものに！ 教育課程や日課を工夫し、教員の学びを位置づけていこう

令和5年度第2回臨時総会が9月5日（火）に各郡市教育会から選出された代議員47名（全代議員50名）の出席のもとオンラインで開催された。第1号議案、第2号議案が上程・承認され、その後7つの協議題について意見交換された。以下臨時総会の概略を報告する。

【武田会長あいさつ】

- 「児童の教育は児童にたちかえり、児童のうちに建設されなくてはならない」

これは大正時代長野師範附属小学校に設置された「研究学級」の実践報告としてまとめられた淀川茂重『途上－研究学級の経過』（昭和22年7月信濃教育会出版部）の「一、創設当時の抱負」にある一文である。「研究学級」を創設した教師達の中心にいた主席訓導斉藤節への聞き取りをもとに書かれたものである。

- 斉藤節は北安曇会染の生まれで当時長野師範附属小学校の主席訓導であり、今で言うと教頭もしくは教務主任にあたる。斉藤節は研究学級の最初の担任となった田中嘉忠に「児童を尊重して、もっと自然にもっと自由に学ばせなければならない。学校はそういうところでなければならない」と言った。現在の子どもたちは自然であるのだろうか。また自由に学んでいるのだろうか。

- 広島県福山市に「常石ともに学園」という公立小学校がある。佐久穂町にある大日向小学校が日本初のイエナプランスクールだが、公立小学校としては初の、日本では二番目のイエナプランスクール認定校である。現行の学習指導要領内においても、特色のある教育課程を組むことは公立学校でも可能だということをこの学校は実証し力づけられる挑戦であると思う。福山市においては市長や市教委の強力なバックアップがあってできていることだが、公立学校でもできることが十分あるということを示している。

- 現在の学校の仕組みやシステムは子どもたちを尊重しているのか。大人や学校の都合で行われていることはないのか。子どもたちは、長い間先生の話をおとなしく聞く存在なのであろうか。そもそも子どもは大人の指示通り行動するのだろうか。子どもらしさとは何であらうか。子どもには子どもの世界や社会があるのでないか。そのようなことを淀川茂重の『途上－研究

学級の経過』を読むたびに思う。

- 常石ともに学園のような大きな変革はなかなかできるものではないが、学習指導要領の中でも変えられることは数多くある。大人の知恵と協力で子どもが子どもでいられる学校を作っていきたいものである。教育課程の編成権は校長にある。信州の学校は斉藤節の言う「児童を尊重して、もっと自然にもっと自由に学ばせなければならない。学校はそういうところでなければならない」そういう学校でありたい。あり続けたいと思う。

【議 事】

第1号議案「入会及び退会並びに会費規程の改正（案）の議決」に関する件

第2号議案「保有債券償還に伴う新規債券購入の承認」に関する件

【協 議】

- (1) 「実年会員にとって『魅力』ある事業」について
－実年会員対象パッケージ事業「笑顔」－
- (2) 令和5年度全県研究大会の推進及び令和6年度全県研究大会の構想
- (3) 第137回信濃教育会総集会更埴大会の反省及び今後に向けて
- (4) 令和5年度会員アンケートの推進計画
- (5) 令和5年度図書教材研究協議会アンケートについて
- (6) 教育研究団体補助金の決定について
- (7) 今年度の会員増の取組と今後に向けて

【報告・連絡】

- (1) 教育研究所研究発表会報告
- (2) 教育研究所募集要項
- (3) 第20回信州“教育の日”宮田大会－ハイブリット－
- (4) 購読の募集状況について

- (5) 「教員助成事業」の応募状況
- (6) 郡市教育会展開催について

【意見交換】

テーマ 「働き方改革の中で、教員の学びをどのように位置付けていくか」

○グループ別協議

○全体協議

＜授業研究への意識を変えていこう＞

- ・授業研究については、意識を変えてゆくことが大事。やって良かったと思える授業研究を目指していきたい。特に指導案の審議等では苦しい研究ではなくて全員参加で楽しい研究、やってよかったと思える研究をしていきたい。ベテランの先生と若い先生の両方が活躍できる授業研究が大事ではないか。
- ・先生方が子どものために意義を感じて自主的主体的に学ぶ、ということがキーワード。充実感ややりがい、働き方改革に繋がるのではないか。
- ・働き方改革の名のもとになかなか学ぼうとすることに積極的になれないような先生方もいるのではないか。この方々にどう学ぶ気持ちを作るかということが大事ではないか。

＜日課を工夫し時間を生み出していこう＞

- ・平日に教育会の総集会を設けるなど、休日は休日として大事にしていきたい。
- ・日課を工夫し、月曜日の重点研究のときは5時間にしておいて放課後にゆとりをもつ、水曜日の清掃はやめて放課後にゆとりをもたせる、というように日課を工夫しているところがある。
- ・下校時刻を少しずつ早めて時間を生み出している学校もあった。

＜授業研究の方法、学校づくりとして＞

- ・若手の先生とベテランの先生がうまくマッチングいくこと。
- ・学校規模や地域特性に応じた学校の方向がきちんと示されることが大事。
- ・目指す子ども像を先生方が共有すること。
- ・各世代の先生方がもっている財産を交流させていく。例えば意見交換するときにその中の短い一場面のやりとりで絞る。授業者が困っていることを相談しそれにアドバイスをするというようなことを区切って行う。
- ・OJT、共に学ぶ気風がある中学校もあった。職員会のたびに中核となる教員が前に出ての10分のミニ研修が位置付いている学校。初任者指導のなかで先生方も共に学んでいる学校もあった。
- ・なかなか担任が一人で授業している中では気づかない

子どもの学びをフィードバックしていくためには、多くの目で見える授業研究の機会が必要ではないか。

- ・校長の役割として、理念、目指す姿をしっかりと示しながら、PDCA サイクルを回して行くことをしっかりと行い研究を位置付けていく。その中で学校づくり、授業観を先生方とともに共有していくところが求められているのではないか。

【閉会のあいさつ】

- かつて長野県には提灯学校という言葉があった。これは大正時代頃からあったようだが、夜遅くまで学校で仕事をし、帰りが真っ暗になるので提灯で足元を照らしながら帰る様子を提灯学校と言った。特に長野県がそういう傾向が強かったと言われている。
- しかし、もう過去のような研究授業のやり方や時間の使い方というものに戻ることはできないし戻る必要もない。ではこれからどんな授業研究、先生たちが力を付けていくとはどういうことかを考えないといけない。
- 今、研究調査部から全県研究大会のPVをご覧いただいたがキーワードは2つあると思う。これからの研究は、やって良かった、楽しい、ということが無いとダメではないか。研究が修行であったり苦行であってはいけないのではないか。もう一つは、その先生や学校がどんな授業を行いたいのか、どんな授業を目指すのか、ということだと思う。
- 県の中学校長会を3年ほど担ったが、会議の休み時間や昼食時などでそれぞれの学校や先生方が行っていることが情報交換される場が非常に大切なのではないか。もともと校長会はそういう場であったかと思う。それぞれの学校へ戻って得た情報をもとに自校ではこうしよう、こう取り組もう、と参考にできる場であったかと思う。これは教育会も同じ。
- 信濃教育会も働き方改革については関心をもって現場の役に立てるようにしていきたい。これからの研修はその方法も大事だが、今までやってきたことの何かをやめなければ絶対に時間はできない。工夫には限界がある。やめる勇気を持つこととやめたときにバックアップをしてくれるものが必要である。信濃教育会もバックアップをしたり現場を支えたり、学校のサポートをしたいと思っている。
- 是非、いろいろな学校や先生が全県研究大会に立候補していただき楽しくやっていただきたいと思う。各郡市でご紹介していただいたり、それぞれの学校で考えていただいたりするとありがたい。

日本連合教育会研究大会

～様々な「知る」があります～

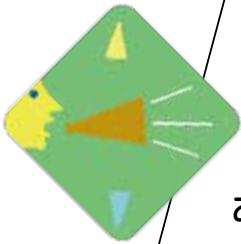
自分を知る

会員のみなさん
是非ご参加を！

人を知る

地域を知る

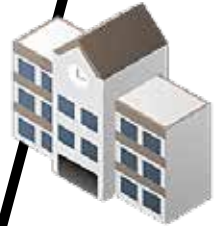
子どもたちのために、みんなで教育を考えることを通して



令和8年8月 日本連合教育会研究大会が

長野市 にやって来ます！！

あと3年、会員の皆さまのお力で **大成功に！！**



第74回日本連合教育会研究大会 山口大会 報告

日本連合教育会は、時代の変化に対応し、教育民主化の精神に徹し、国際的な日本人育成の教育実践に精励している教育団体です。信濃教育会も含め全国12教育会が所属し、年に1回、各教育会もち回りで研究大会を開催しています。

今年度は、令和5年8月17日（木）～18日（金）に「時代+の変化を前向きに捉え 志高く人間性豊かに未来を創造する日本人の育成」を大会主題とし、「西の京」山口県山口市で開催されました。信濃教育会からは40名が参加し、教育について語り、絆を深めました。

(1) 記念講演

演題 「チームでつかんだ金メダル」

講師 道下 美里 選手

（東京2020パラリンピック 女子マラソン金メダリスト）



これぞ道下流の極意、
あきらめない心、プラス思考
笑顔がすてきでチャーミングな道下美里選手でした。

生い立ちから走ることを始めたきっかけ、チーム道下の誕生、金メダルのためにやってきたことなどを映像を使ってお話ししていただきました。

参加者の感想から

○道下選手の明るさとパワフルさに驚いた。パラリンピックのニュースでは、知ることのできなかった生き様について知ることができ、学びが多かった。特に、「自分の可能性を信じ、仲間の可能性を信じ、今に幸せを感じながら、自分にしかできないことを追い求めていく」という話から、その信念が道下選手を支えているのだと感じた。道下選手の人間性、伴走者の方を大切にする協同する力、本番に向けてPDCAを繰り返していく実行力。それらは教師としてのみならず、私自身の生き方としても参考にしていきたいと感じた。

(2) 分科会

提案者の発表から学び、全国の先生方と議論することにより、
2学期からの元気をいただきました。

「学習指導」「教育課程」「道德教育」「生徒指導」「特別支援教育」「人権教育」「健康・安全教育」「外国語教育」「幼児教育」「学校・家庭・地域の連携」の10の分科会が開催され、「幼児教育」以外の分科会に信濃教育会の代表が参加しました。

「教育課程」分科会では、塩尻市立片丘小学校山本直佳校長先生に信濃教育会の代表として提案発表をしていただきました。



参加者の感想から

○信濃教育会を代表して提案発表された片丘小学校校長 山本直佳先生のお話をお聞きし、我々長野県の教職員が日々の教育活動の中で大切にしている、子ども一人ひとりの姿を見とどけ、その子どものもつよさを認めようとする姿勢の素晴らしさを、改めて認識することができました。また、その姿勢が県全体、地域全体の理念となっていることのすごさを他県の先生方から教えていただき、今後の私自身の子どもたちと向きあう姿勢に磨きをかけることのできた機会となりました。

(3) 大会に参加してみて

参加者の感想から

- 他県の先生方の実践をお聞きしたり、長野の先生方と語り合ったりする中で、今の自分の立ち位置を客観的に見つめ直すことができたり、自分の中で大切にしたいことが改めて見えてきたりしたように思います。
- アトラクション、山口を代表する偉人吉田松陰の生涯についての語録を踏まえながらの創作ミュージカルになっており、興味深く鑑賞させていただきました。吉田松陰の生き様に触れることができました。



第75回日本連合教育会研究大会 愛媛大会のお知らせ

大会主題 「共助のところで しなやかに生きる日本人の育成」

- 1 期 日 令和6年7月25日(木)～26日(金)
- 2 会 場 エスポワール愛媛文教会館 他
- 3 記念講演 講師：俳優・武道家 藤岡 弘 様
- 4 アトラクション 小中学生等による伝統芸能発表

※ 現地参加とオンライン参加のハイブリッドで開催する予定です。

参加について関心がある
会員は、下記へお問い合わせください。
信濃教育会担当：
清水 秀明
TEL：026-232-2258

自主的に学ぶ合う教育研究団体へ補助・支援をしています

9/6（水） 教育研究団体と信濃教育会との懇談会

「教育会や同好会で教員が自主的に学ぶのが長野県
の教育だった。しかし昨今このことが危うくなっている。そ
れぞれの悩みや苦労を情報交換しながらそれぞれの研究団
体が元気になり、より深まることを願う」と武田会長。

元々は昭和35年より教育研究団体補助事業として国と
県が二分の一ずつ補助をしてきたものが昭和55年に打切
りとなり、その後信濃教育会が補助金を続けてきていま
す。懇談会では会員減の現状や事務局運営面での苦労等
が語られ、一方でより参加しやすい日程・場の工夫や活性化のための取組みが多々報告されまし
た。少子化に伴い教科会が一人一人といった学校も多いなか先生方がつながり教員自ら自主的に学
び続けるこの気風を一層発展させていきたいと心から願います。



令和5年度 教育研究団体補助金

No.	補助金申請教育研究団体名	責任者名	補助金額
1	信州社会科教育研究会	野口 茂雄	120,000円
2	長野県学校体育研究会	秋山 昇	115,000円
3	信州理科教育研究会	土屋 次男	115,000円
4	長野県算数数学教育研究会	茅野 公穂	105,000円
5	長野県音楽教育学会	石川 武	70,000円
6	長野県技術・家庭科教育研究会	市川 元彦	60,000円
7	長野県国語教育学会	西原 秀明	55,000円
8	長野県学校保健会養護教諭部会	畠山 文子	55,000円
9	長野県美術教育研究会	徳嵩 博樹	55,000円
10	長野県道德教育学会	山浦 貞一	35,000円
11	長野県英語教育研究会	白井 伸明	35,000円
12	生活に根ざす信州総合・生活科教育研究会	馬淵 勝己	40,000円
13	長野県書写書道教育研究会	小池 勲	25,000円
14	長野県家庭科教育研究会	竹内 宏枝	20,000円
15	長野県国際教育研究協議会	宮澤 忠利	35,000円
16	信州大学教育学部附属幼・小・中・特支6校園学習指導研究会	畑 邦弘	200,000円
17	長野県図書館協会小中学校図書館部会	林 明美	50,000円
18	長野県視覚・放送・情報教育研究会	片山 洋一	40,000円
19	長野県統計教育研究協議会	横澤 秀信	30,000円
20	長野県特別支援教育研究連盟	山下 雅史	25,000円
21	長野県学校保健会 小・中・特別支援学校保健主事部会	西沢 和彦	20,000円
22	長野県へき地教育振興協議会	日台 邦治	20,000円
合 計			1,325,000円

第20回 信州“教育の日”宮田大会

ハイブリッド方式開催のご案内

信州“教育の日”実行委員会

第20回信州“教育の日”宮田大会を開催いたします。今年度は対面とオンラインでの参加によるハイブリッド方式で行います。また、7つの分科会を設け、様々な立場で子どもたちの教育に関わっている方々と参加者との意見交換を通して、これからの信州教育について考えて参ります。新たな信州“教育の日”にご注目ください。

◇開催日 令和5年11月18日（土） 13:00～15:40

◇共催：宮田村教育委員会 後援：長野県議会 長野県教育委員会ほか県内138団体

◇プログラムの概要

◆開会セレモニー ◆分科会① ◆宮田村の紹介 ◆分科会② ◆閉会セレモニー
 〈分科会内容〉
 ○地域食材による給食支援 ○子どもと地域が一緒に取り組む防災
 ○中沢小応援隊 ○企業とのコラボによる高校生の探究学習（高遠高・上農高）
 ○ありがとうプロジェクト ○キャリアフェス～こうして始まった

◇参加申込方法

10月に信濃教育会ホームページに詳細をアップします。参加ご希望の方は、ホームページ内の申込フォームからお申し込みいただけます。一般の方は、オンライン（ズーム）での参加となります。

令和5年度 公益社団法人 信濃教育会

第27回「教育研究論文・教育実践賞」募集のお知らせ



詳細はHP
をご覧ください！

作品内容	1 目標達成や課題解決のための自主的、継続的な研究や実践をまとめたもの 2 指導や支援による子どもの変容や成長をまとめたもの 3 会員にとって学びがあり研究や実践の参考になるもの
部 門	個人の部 / グループの部（2名以上）
応募資格	信濃教育会会員であること
表 彰	特 選：賞金10万円・楯・賞状 入 選：賞金3万円・賞状 奨励賞：図書カード（2千円分） 準特選：賞金8万円・楯・賞状 佳 作：賞金1万円
提出先／ 締切り	小・中・特別支援学校 → 各教育会事務局 令和6年1月12日（金）必着 高校・大学 → 信濃教育会 令和6年1月19日（金）必着

11・12 月の研修ガイド

11月13日（月）

●第2回講師研修会 ◎長野上水内教育会館 ◇講演と分散会「多様性を包み込む学級集団づくり～特性のある子どもたちと共に～」岸田優代（長野県スクールカウンセラー）☆長野上水内教育会 026-226-2458

11月17日（金）

●松本市教育会教育講演会 ◎松本市教育文化センター 3階視聴覚ホール ◇「今の教育 これからの教育」嶋野道弘 ☆松本市教育会 0263-32-4751

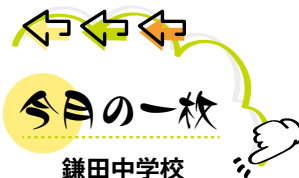
11月18日（土）

●諏訪の子どもや教育を語る会 ◎諏訪教育会館 ◇テーマ「家庭・学校・地域それぞれの役割と連携」☆諏訪教育会 0266-52-0213

12月23日（土）

●諏訪湖水鳥観察会 ◎岡谷市横河川河口周辺 ◇水鳥・冬鳥の観察 ☆諏訪教育会 0266-52-0213

●名称 ◎会場 ◇演題・講師等（講師名敬称略） ☆連絡先



「自主自立」の教育目標実現に向け、あいさつ・清掃・合唱を重点に生徒会を中心として自立的な活動に取り組んでいます。その一つ『合唱』では、毎年しらかばの日（音楽会）で、まつもと市民芸術館いっばいに最高の歌声を響かせています。

信濃教育

予告



我が教育会の取組

No. 4

普段何気なく過ごしている生活の中で、ふと足を止めて「美しく感じる瞬間」の一場面を切り取り、表現しました。鉢中生によって丁寧に磨かれた階段に、柔らかな日差しが差し込むその一瞬は、時が止まったような静寂さを感じさせてくれます。その一方で、表情豊かに描かれた木目一枚一枚からは、生徒たちが行き交う笑い声や躍動感を感じることが出来ます。

佑介さんは誠実に対象と向き合い、階段の向こうには、どのような景色が広がっているのでしょうか？ 上ってみたいくなるような気持ちにさせてくれる、あたたかで美しい瞬間に出会えました。

指導者
末益奈緒美（鉢盛中学校）

100年館の絵

令和4年度 永年保存作品
今を生きる子どもの絵



「階段」

笠原 佑介（鉢盛中一年）

信濃教育博物館所蔵

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。



公益社団法人
信濃教育会

〒380-0846 長野市旭町 1098 TEL 026(232)2470
URL <https://shinkyō.or.jp> ✉ shinkyō@shinkyō.or.jp
編集兼発行人／武田 育夫

